

第9回 都城市市民意識調査 ふれあいアンケート結果

市では、市民の意見を市政に反映させるため、7月に「都城市市民意識調査（ふれあいアンケート）」を実施しました。調査にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

今回は、20歳から80歳までの約12万2,000人の市民の中から無作為に選んだ4,000人を対象に、本市の住み心地や市民サービス、自治公民館、墓地・納骨堂、防災意識、地域包括支援センター、家庭の日、心の健康、市議会、選挙、市政への要望について調査を行いました。

回答者は1,512人で、回答率は38%でした。詳細な結果は、市のホームページに掲載しています。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

◆男女別

性別	回答者	比率
男性	600人	39.7%
女性	890人	58.8%
無回答	22人	1.5%
計	1,512人	100.0%

◆年代別

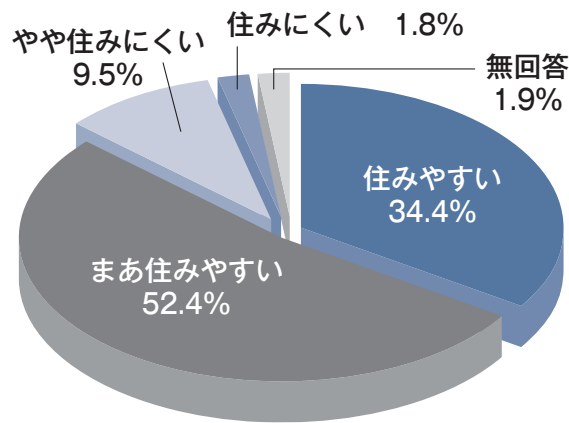
年代	回答者	比率
20代	96人	6.3%
30代	160人	10.6%
40代	228人	15.1%
50代	275人	18.2%
60代	403人	26.7%
70代	330人	21.8%
無回答	20人	1.3%
計	1,512人	100.0%

◆地区別

地区	回答者	比率
姫城	96人	6.4%
小松原	83人	5.5%
妻ヶ丘	165人	10.9%
祝吉	182人	12.0%
五十市	171人	11.3%
横市	123人	8.1%
沖水	108人	7.2%
志和池	86人	5.7%
庄内	64人	4.2%
西岳	25人	1.7%
中郷	79人	5.2%
山之口	64人	4.2%
高城	92人	6.1%
山田	52人	3.4%
高崎	86人	5.7%
無回答	36人	2.4%
合計	1,512人	100.0%

◎解説
住み心地については、86・8割の人が、「住みやすい」、「まあ住みやすい」と感じていて、前年度の調査より0・9ポイント低くなっています。平成20年度以降、下落傾向が続いています。

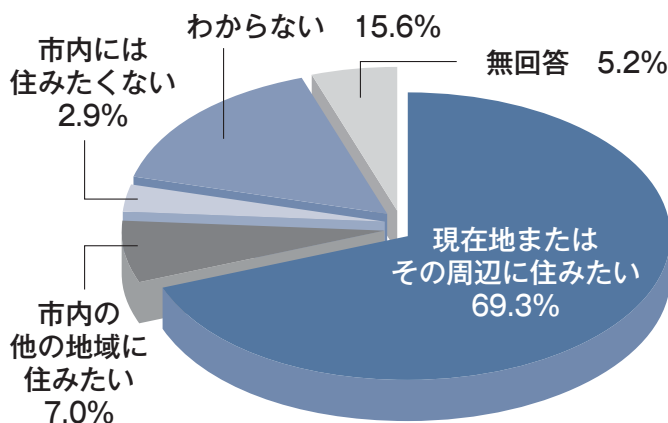
年代別にみると、「住みやすい」、「まあ住みやすい」と感じている人は、20代の95・8割が最も多く、逆に最も少ないのは30代の81・9割となっています。



Q 今の都城の住み心地をどう感じていますか。

◎解説
76・3割の人が、「都城に住み続けたい」と感じていて、前年度の調査より1・4ポイント高くなっています。

年代別にみると、「都城に住み続けたい」と感じている人は、70代の81・3割が最も多く、逆に最も少ないのは30代の66・3割となっています。

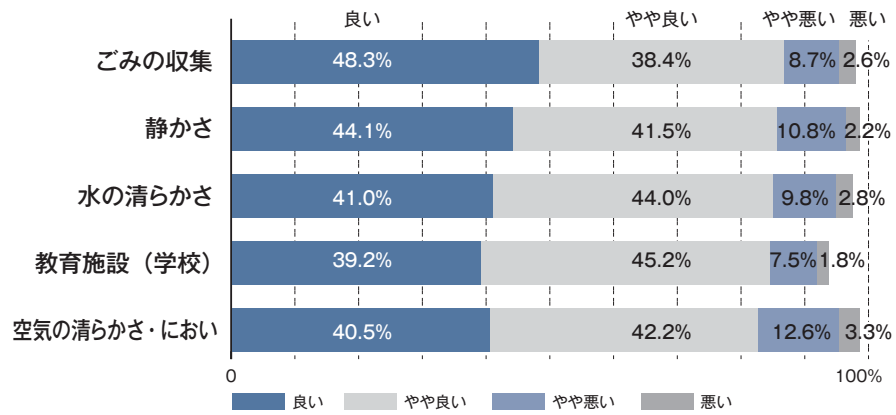


Q これからも都城に住み続けたいですか。

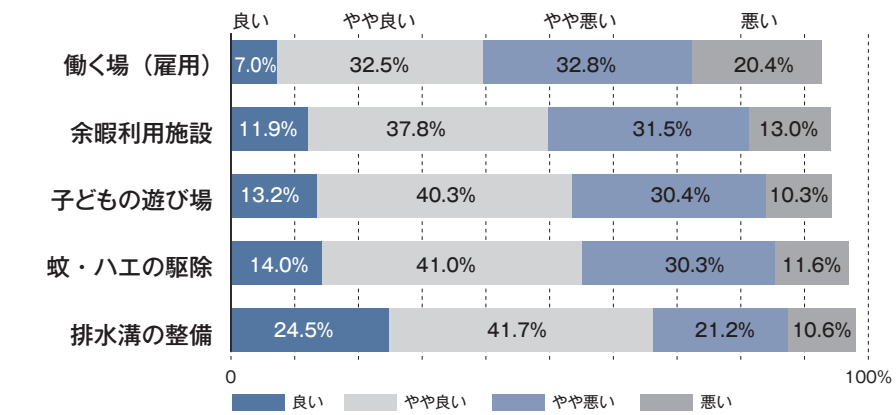
都城の住みやすさをどう感じていますか。

Q 次の項目についてどのようなように感じていますか。

「良い」・「やや良い」上位5項目



「良い」・「やや良い」下位5項目



◎解説

ごみの収集や地域の安全などの20項目について調査しました。「良い」、「やや良い」と感じている上位5項目は、ごみの収集（86・7割）、静かさ（85・6割）、水の清らかさ（85・0割）、教育施設（学校）（84・4割）、空気の清らかさ（82・7割）となっています。

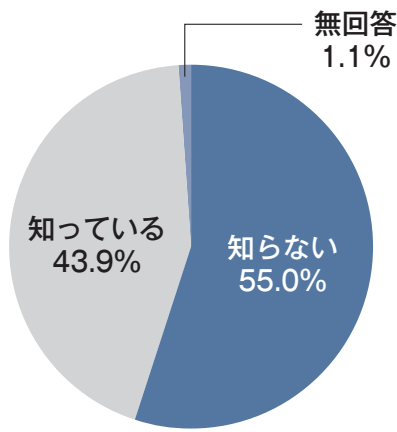
◎解説

逆に、下位5項目は、働く場（雇用）（39・5割）、余暇利用施設（49・7割）、子どもの遊び場（53・5割）、蚊・ハエの駆除（55・0割）、排水溝の整備（66・2割）となっています。

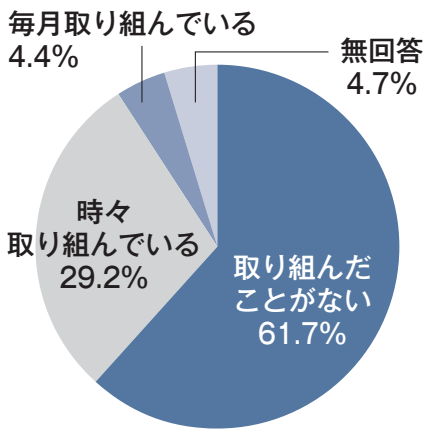


家庭の日について

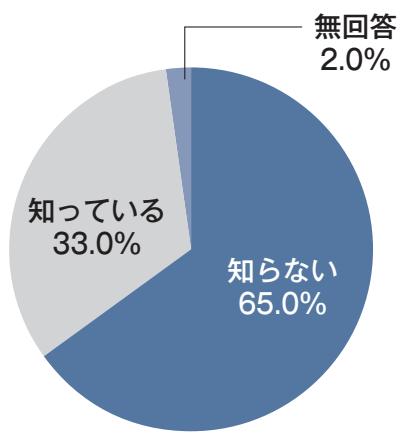
Q 毎月第3日曜日が「家庭の日」であることを知っていますか。



Q 「家庭の日」に取り組んだことがありますか。



Q 「家庭の日」に県内各地の施設・店舗で料金割引などのサービスがある「優待制度」を知っていますか。



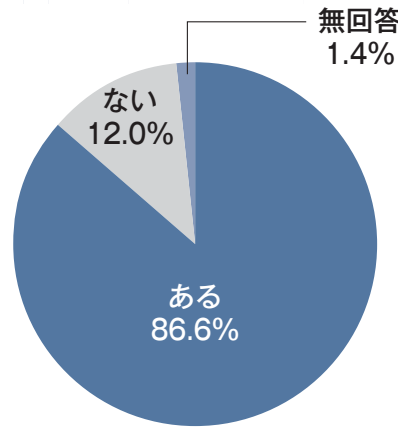
◎解説

青少年の健全育成を目的に家族のふれあいを深めようと、宮崎県では毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めています。本市でも、市長が自ら率先してこれに取り組んでいます。家庭の日について、55・0割が「知らない」と回答していて、61・7割が「取り組んだことがない」と回答しています。また、啓発の一環として県が取り組んでいる「優待制度」についても、65・0割が「知らない」と回答しています。

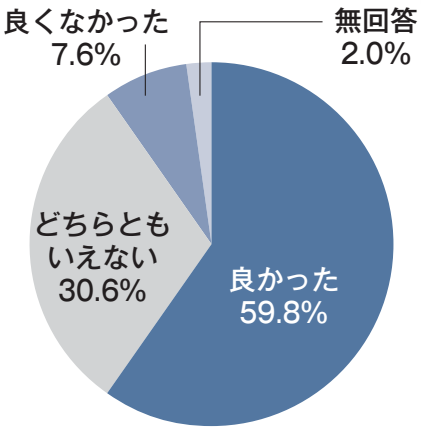


市民サービスについて

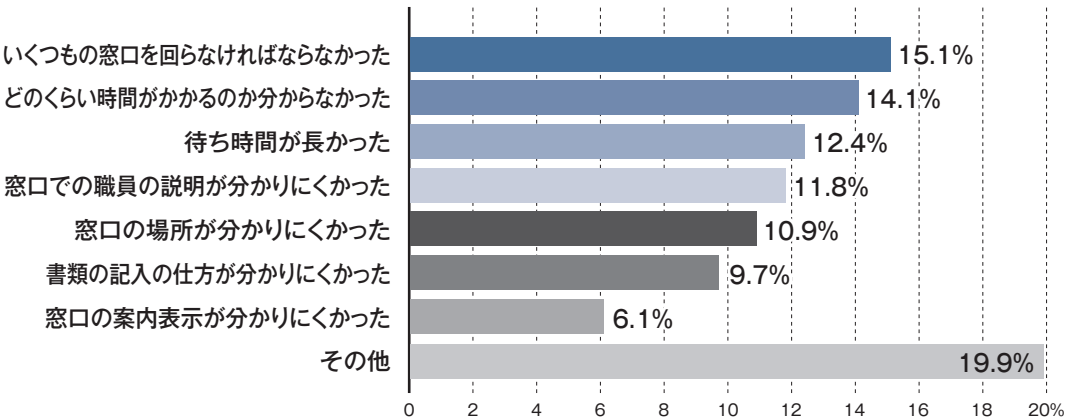
Q 本市の窓口について、これまでにご利用したことがありますか。



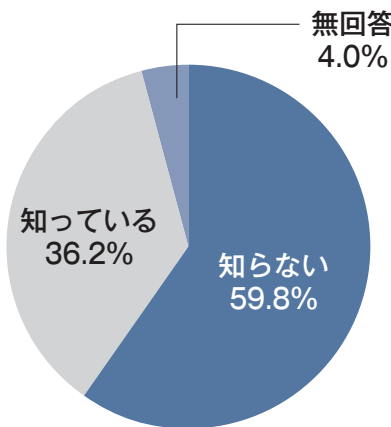
Q 窓口を利用して、どのような点が良くなかったですか。(複数回答)



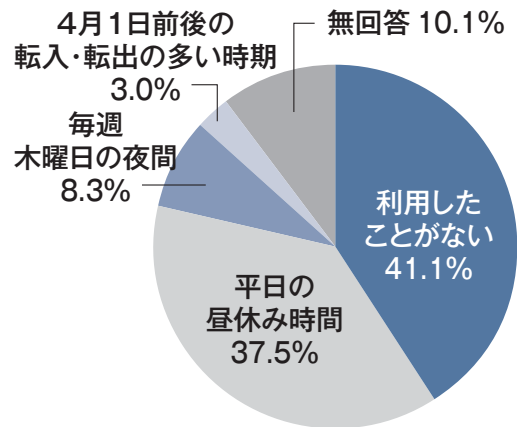
Q 窓口を利用したときの印象は、どのようなものでしたか。



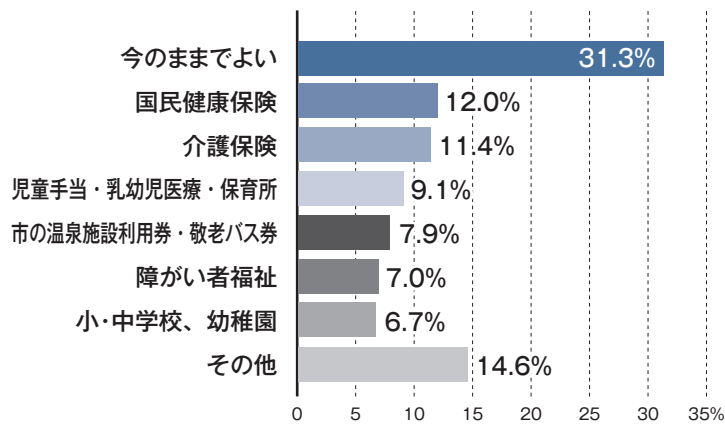
Q 本市では、行政サービスの利便性の向上を図るために、市民課窓口業務の時間延長に取り組んでいます。これらのサービスを知っていますか。



Q 利用したことのある時間帯はありますか。(複数回答)



Q 現在、市民課の窓口では、戸籍・住民異動届出や税証明書の発行を行っています。それ以外にどのようなサービスが受けられたいと思いますか。(複数回答)

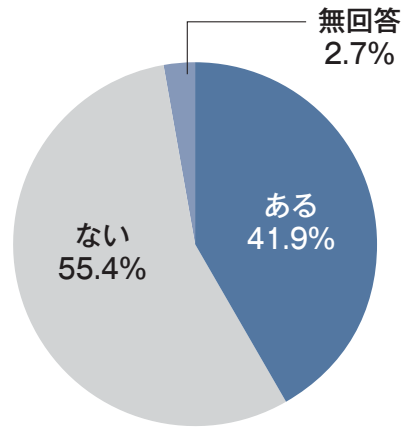


◎解説
更なるサービスの充実と職員の意識改革の参考とするため調査を行いました。市では、総合窓口導入の検討を行っていて、市民サービスの重要な資料として活用していきます。

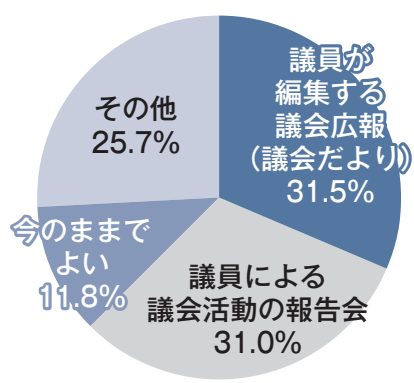


市議会について

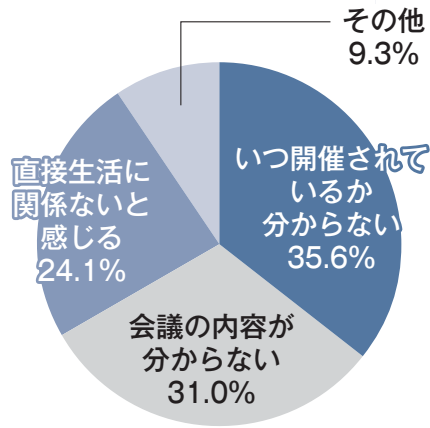
Q 市議会に関心がありますか。



Q 「市民のための開かれた議会」にするために必要なものは何だと思えますか。



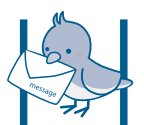
Q 市議会に関心がない理由は何ですか。



◎解説

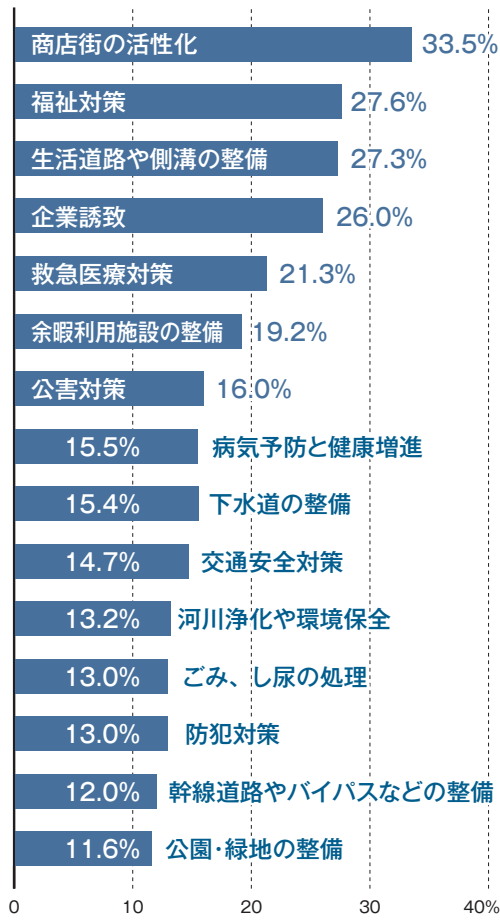
市議会に関心が「ない」と答えた人は55・4割となっていて、その理由としては「いつ開催されているかわからない」、「会議の内容がわからない」、「直接生活に関係ないと感じる」があげられています。

市民のための開かれた議会にするために、議員による「議会だより」の発行や議会活動報告会の開催が必要とされています。



市政への要望

Q あなたが特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。(複数回答 上位15位)



◎解説

特に力を入れてほしい項目の1位は、4年連続で「商店街の活性化」となっています。平成21年度以降、順位の変動はあるものの、「商店街の活性化」、「福祉対策」、「生活道路や側溝の整備」、「企業誘致」、「救急医療対策」は、常に上位5項目になっています。

昨年度と比較して順位が上昇した主な項目は「余暇利用施設の整備」、「下水道の整備」、「ごみ、し尿の処理」、「公園・緑地の整備」となっています。

年代別でみると、20代・40代・50代・60代で「商店街の活性化」、30代で「余暇利用施設」、70代で「生活道路や側溝の整備」が1位となっています。

地区別でみると、姫城・小松原・妻ヶ丘・祝吉・五十市・横市・山之口・山田・高崎で「商店街の活性化」、沖水で「余暇利用施設の整備」、志和池・西岳・中郷で「生活道路や側溝の整備」、庄内・高城で「福祉対策」が1位となっています。